

和食の魅力とは？

日本の食文化は、ユネスコ無形文化遺産に「和食；日本人の伝統的な食文化」として登録され、世界からも注目されています。この「和食」とは、料理のことだけではなく、「自然の尊重」という精神に基づいて育まれてきた食に関する社会的慣習を意味し、右のような特徴があります。持続可能な社会を実現するためにも大切にしていきたい食文化です。11月24日は、一般社団法人和食文化国民会議が定める「和食の日」です。和食を味わい、その魅力を感じ、これからの日本の食文化について考える機会にしていだければと思います。

和食の4つの特徴

<p>1 多様な新鮮な食材とその持ち味の尊重</p>	<p>2 健康的な食生活を支える栄養バランス</p>
<p>3 自然の美しさや季節の移ろいの表現</p>	<p>4 正月などの年中行事との密接な関わり</p>

11月の給食より

・11月24日「和食の日」

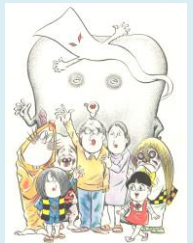
本校の給食では、かつお節、さば節、昆布などの天然食材から出汁を取っています。濃厚な出汁を取ることで、少ない塩分量でもしっかりと美味しく感じることができます。当日は給食委員会による食育集会があります。

・11月29日・11月30日
「ゲゲゲ忌にちなんだ給食」

調布市の名誉市民である漫画家・水木しげるさんは鳥取県境港市で育ち、その後、昭和34年から93歳までの間を調布で過ごしました。調布市では、水木しげるさんが亡くなった11月30日を「ゲゲゲ忌」とし、いろいろな催しが行われています。そこで11月29日・30日の給食は「ゲゲゲ忌」にちなんだ給食を取り入れました。

・11月29日
ぬりかベトースト

・11月30日
鳥取県郷土料理
目玉おやじゼリ



和食に欠かせない「ご飯」

和食は、お米を炊いた「ご飯」を中心に、「汁」と「おかず（菜）」を組み合わせた「一汁二菜」や「一汁三菜」の献立が基本です。栄養バランスが良く、日本人の長寿を支える健康的な食事です。また、お米は日本人にとって欠かせない作物で、年中行事とも深く結び付いています。



日本人が発見した「うま味」

だし「うま味」は、和食の味わいに欠かせないものです。明治時代に、日本の科学者・池田菊苗博士が昆布のだしからグルタミン酸を発見し、これを「うま味」と名づけました。イノシン酸やグアニル酸などのうま味成分も日本人によって発見され、甘味・塩味・酸味・苦味と並ぶ5つの基本味の一つとして世界でも認められています。英語でもそのまま「UMAMI」と表現します。

「だし」の素材とうま味成分

- ◆ 昆布…グルタミン酸
- ◆ カツオ節・煮干し…イノシン酸
- ◆ 干しいたけ…グアニル酸

和食のマナーをチェック!

<p>「いただきます」「ごちそうさま」を、心を込めて言っていますか？</p> <p>食事のあいさつには、自然の恵みや生き物の命、食事が出来上がるまでに関わった人々への感謝の気持ちが込められています。</p>	<p>食器の正しい置き方を知っていますか？</p> <p>おわんの持ち方 ご飯は左、汁物は右、おかずは奥に置くのが基本です。ご飯や汁物のおわんは、手に持って食べます。</p>	<p>箸を正しく持っていますか？</p> <p>上の箸だけを動かす 上の箸だけを動かして、食べ物を挟みます。箸のみで食事するのは、日本独自の習慣です。</p>
--	--	--

深大寺小ホームページ 食育情報 更新しています！

日々の給食の写真を本校ホームページから見るができます。アップロードは1月単位で行っています。ご家庭で是非ご覧ください。

JINSHO × SCHOOL LUNCH



とどけ! ゆめワゴン

6/1 牛乳

モロヘイヤのおかあえ
とりのからあげ(ひとり2つ)

ごはん 茨城産コシヒカリ

ごじる

カキツ

6月食育月間

今月は日本各地の郷土料理(汁物)がたくさん登場します。給食で食文化を学びましょう。

HPはこちらから

